

令和4年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和4年10月25日（火） 午前10時30分から11時30分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広、岡野 創造、半場 江利子、松本 重雄、位高 光司、
能見 伸八郎、山本 みどり、白須 正
監 事 長谷川 佐喜男 中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長、大島京北病院事務管理者・統括事務長、菱田経営企画課長

1 開会

2 報告事項

(1) 新型コロナウイルス感染症関連の情勢、法人の対応等について（報告事項）

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 第7波収束以降、京都府より地方都市の感染者数が多いことがある。都道府県によって集計方法が違うのか。
→ 都道府県による大きな差はないと思われる。現在は、気温が低い地域で感染者数が増加している傾向があり、寒さが深まれば、再拡大が予想される。ワクチン接種を確実に実施していくことが望ましい。
- コロナ補助金については、今年度も昨年度と同程度の収入を見込んでいるか。
→ 10月からは補助額の上限規制が設けられたが、当院への影響は軽微で、昨年度と大きな差はないと考えている。

(2) 月次収支（8月）報告（報告事項）

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 8月は市立病院、京北病院ともに院内での集団感染による影響を多分に受けた。
- 光熱費の高騰が目立つ。これを受けて、委託料の増額予定はあるか。
→ 電気代の高騰については、当初年間5億10百万円の増額を見込んでおり、うち10百万円は政策医療分として、京都市補正予算による補助があった。委託料については、PFI契約によるものが多く、現段階では増額の予定はない。また、医薬品・診療材料費も年間で約40百万円の増額となる見込みである。
- 院内感染による医業収益の減収や経費の増加等で厳しい状況だが、今年度も昨年度と同程度の収支を見込んでいるか。
→ 今年度についても補助金による収入を一定見込んでおり、よほどの減収要因がない限り、赤字となることはないと思われる。
- 財政的に安定すると気が緩んでしまうことがある。気を引き締めて経営に当たっていくことが重要である。
→ 昨年度の黒字や今年度の黒字見込みはコロナの補助金収入によるところが大きく、経営的には努力する必要があると考えている。引き続き経営改善に取り組んでいく。

3 その他

- 新型コロナ対応が長期間続いているが、職員の「コロナ疲れ」はどうか。
 - 看護師には心理カウンセラーによるマインドフルネスの研修を継続して行っている。疲労している職員がいることは認識しており、今般の院内方針変更に合わせて、リフレッシュの機会を設けるよう伝えている。また、今年度から、一部専門職を除いて、コロナ病棟に勤務する看護師をローテーション制にすることで、特定の職員に負担が集中しないよう工夫している。
- 看護職員の処遇改善の進捗はいかがか。
 - 今年度の4月から国からの補助金を原資に手当を支給しているが、10月からは診療報酬の一部を手当として支給する。給与表の見直しについては、京都市の給料表の改定に合わせて変更する予定だが、具体的な話は出ていない。
- 患者満足度調査や職員満足度調査の進捗はいかがか。
 - 令和元年度から患者経験価値（PX）を導入し、昨年度からはベンチマークに参加することで、改善を重ねている。今年度の自治体病院学会で取組成果を発表する予定である。
 - 職員満足度については、ボトムアップの各種取組を支えることで上げていきたいが、課題は多い。
- 設備等を更新する際は、国や自治体から補助を受けられないのか。
 - 大規模改修については、中期計画で計上して認めてもらうことで、借入返済の半額を京都市に負担してもらえることになっている。
- 事務職員の給与は京都市の給与表に準拠しているのか。また、給与改定に伴う運営費交付金の交付はあるのか。
 - 法人独自で決定しているが、概ね京都市に準拠している。今度見直す必要があると考えている。また、運営費交付金で給与改定に関する項目といったものはない。

4 閉会